令和元年度　第一回　宜野湾市市民協働推進審議会　会議録（要旨）

日時：令和２年２月 13 日（木）午後７時００分～午後９時００分
場所：宜野湾市役所　第二常任委員会室
出席：岩田直子委員長、稲垣暁委員、宮道喜一委員、大城周子委員、城間仁委員、松本勝利委員
欠席：島袋盛子委員、久米保源委員、新垣真弓委員、森根清昭委員

・議題１：市民協働推進実施計画の評価及び今後の方針について

開会

委　員長　会議規則第 6 条第２項に基づき、委員の半数以上が出席しておりますので、本会議は成立いたします。ではこれより議事の進行を進めてまいります。
議題１：市民協働推進実施計画の評価及び今後の方針について、事務局から説明をお願いします。

事務局　　【資料に沿って説明】

委　員長　それでは、議題１：市民協働推進実施計画の評価及び今後の方針についての説明が終わりましたが、それについて、何かご質問等があればお伺いしたいと思います。

＜質疑応答＞　10 分程度

市民参加の促進

委　員　卒塾性、広報人材育成プロジェクトはどのような方が参加されているのか。

事務局　地域づくり塾に参加している方。広報に興味のある方。大学生。老人会の方。商工会の女性部の方も参加されており、その後琉球新報の通信員となっている。

委　員　そのような、情報も載せた方が良いのではないか。

事務局　承知いたしました。

委　員　広報の講座を開催しているが、今後の動きはどのようになっているのか。行政との連携も検討しているのか。

事務局　助成事業を活用して活動している。次年度も継続したいということで申請はされている。団体の意向としては、3 年間計画で実施し、最終的には、自走したいという風に聞いている。

委　員　行政だけでの情報発信だけでは、不十分なので、発信者の主体を増やすことは非常に重要だと思うので、このように構築していただきたい。

事務局　盛長さんの協力で、市民協働係のホームページも作成していただいている。広報人材育成プロジェクトと卒塾性との連携も行いながら情報を発信している。

委　員　成果的な内容も、具体的に記入できるといいのではないか。やったことは書かれているが、成果も記入していいのではないか。地域づくり塾からの流れで、広報人材育成プロジェクトは非常に大きな成果ではないか。次年度の方針のところに繋がるようなことを書いてもよいのではないか。
加えて、協働情報の具体的な施策のところですが、協働情報をどれだけ発信したのかというところを触れるところはあるのか。

事務局　市民活動団体へホームページ作成の研修を行っていて、助成金活動団体が各々でホームページをアップしています。

委　員　できるだけ、各々でアップできるようにした方が良いと思います。

事務局　助成金も大学生に活用してほしいとのことで、情報を強化した。

委　員　それも記載した方が良い。

委　員　新聞とかに掲載してもらうと、各団体のモチベーションアップにつながると思うので、広報もどんどん強化した方が良いと思います。

協働の主体の育成・支援

委　員　産業政策課との連携が良く出ているが積極的ですね。

事務局　産業系の市民と繋がりが薄いので、これからは積極的につながっていきたいと考えています。

委　員　３市合同助成金フェスティバルは今後も継続してほしいと思いました。

事務局　３市で情報交換を継続している。今後は、県も含めてできないか検討したい。

委　員　連番９の活動情報の一元化はどこに集約するということになるのですか。

事務局　助成金団体の情報や、市の情報を市民協働係のホームページに載せていきたい。また、県の地域振興協会がプラットフォームを検討しているとの情報を得ているので、そことの連携も検討したい。

委　員　継続してほしいのは、動き出しのお金の獲得はできるが、中間支援の在り方については、指定管理者制度なども研究してほしい。継続的に収益を上げる方法などの仕組みも考えていく必要があるのではないか。

委　員　今の意見に関連して、連番14の中間支援機能の検討ですが、次年度の方針で検討を進めるとあるが、どうやって進めるかっていうことを考えないと進まないと思う。審議会だけでは厳しいのではないか。もしイメージがあれば、具体的に付け加えてもいいのではないか。

事務局　県地域振興協会主催のワークショップで、那覇市の繁多川公民館長と、若狭公民館長がゲストとしていらしていたので、中間支援機能を担う活動をする事ができる一番のポイントは何かと質問してみた。行政から、スタッフへの賃金が保証されていることも大きいとおっしゃっていたので、そういう意味では指定管理も検討する必要があるのか研究したい。

委　員

公民館、自治公民館、児童センター等、それぞれの分野で、地域の活動をサポートする役割を担っているところはあるので、そこを束ねて、どういう方針を示すのかが、宜野湾市における中間支援機能を考える上で重要。

その中の一つの方法として助成金を活用して、中間支援機能をどう作っていくかという議論はありだと思う。自治公民館や、児童館など、中間支援を担う人たちが安定的に機能を担えるように、指定管理を導入していこうという議論はある。そういうことを議論したり、整理する必要があるのではないか。

委　員　那覇市の公立公民館を地域の NPO が指定管理として運営している。那覇市民活動支援センターみたいなものがあるので、宜野湾市はどうしようか。他の地域から学ぶこともたくさんあると思う。このテーマはなかなか進まない。よその市町村をみると動き出している感じがするので、宜野湾市も打ち出す必要があるのではないか。

委　員　浦添市はハーモニーセンターが、教育委員会と市長部局が合体した体制となっている。

委　員　宜野湾市はどのような中間支援組織を作っていくのか、まだまだ整理されていないとおもうのは、中央公民館、介護長寿課が同じような講座をやっているけど、連動がされていない。どこの市町村も同じだと思うが、公民館と介護、市民協働の整理をすることが大事ではないか。

委　員　市立博物館の企画展で自治会の事を発信しているので、とても素晴らしい協働事例だと思った。今までは、広報というと媒体の話になっていたが、実は博物館というのがすごい情報発信原となっている。市立博物館は隠れた資源というのが分かった。図書館とか書店も発信基地になる。那覇市だとジュンク堂があるが、宜野湾市はないような気がする。書籍と絡めて情報を発信するのはとても良い取り組みなるのではないか。
博物館と自治会の協働。連番 18 に繋がるのではないか。

委　員　中間支援の調査報告会に参加したのですが、関心がなかった気がしたので、繋がるというのをメインにしたらよいのではないか。福祉事業所がたくさんあるが、どこにあるのかわからないので、マッピングをするようなワークショップなどはいいのではないか。

委　員　実は自分たちは中間支援をしていたんだと気づくきっかけになる。FM ぎのわんなんて中間支援ですよね。

委　員　毎月 1 回中間支援を担っている人たちで集まって、いろんな情報を集めていく、座談会をやっていくのもアリではないか。

委　員　若手座談会は手ごたえがあったのか。

事務局　新しい取り組みで、実際の声を聴けた。

委　員　嘉数自治会のフォローアップの予定などもあるか。

事務局　せっかくのつながりが出来たので、何らかの形で繋がっていきたい。嘉数の課題解決の提案内容について、地域づくり助成事業を活用して活動する団体が出てきている。

協働による取り組みをしやすくするための環境整備

委　員　事例集については、行政はもちろんですが、民間同士の協働事例を掲載できるとよい。

委　員　地域でマッピングをすると、協働事例も出てくるのではないか。

委　員　協働事例については、協働推進課が関わらない事例が多くあるはずなので、協働推進課がすべて関わろうとすると、なかなか進まないと思う。様々な事例を積みあげていくことで、協働しようという動きに繋がるのではないか。

委　員　連番 23 についてですが、職員研修の講師を務めている櫻井先生は何か言っているか。

事務局　櫻井先生より、受講意欲のある職員は受講しており、これ以上は進まないという意見があり、今年度は実施していない。今後は、人事課と連携しながら、アカデミー研修やファシリテーション研修など、協働に係る研修を推進していきたい。

委　員　協働推進員はどのようにするのか。

事務局　目的をもうすこし研究・検討していきたい。事業を進めながら、他の職員と連携していきたい。また、庁内の勉強会などに参加しているので、そこから連携を図りたい。

委　員　連番 20 の地域単位での話し合いの場づくりの支援・推進は仕組みづくり・環境整備の話なので、福祉部門で行われている、支えあい活動委員会や自治会、中学校区の第二層協議体などと別のものを作るのではなく、連動する必要があるのではないか。

委　員　社協の事業である支え合い委員会が進まないおことがあったのですが、地域づくり塾を行ってことによって、いろんなことが見えてきた。その効果もあって、支えあい活動委員会の立ち上げに向けて動いている。地域づくり塾の成果なので記入してもよいのでないか。

委　員　市民協働推進課の職員も 2 名体制で、人事異動などもあるので、業務の仕組みも考える必要があるのではないか。
また、沖縄国際大学と連携協定も結んだので、大学との連携も検討する必要があるのではないか。

委　員　意見交換の機会をこまめにとっていく必要がある。

委　員　大謝名団地では朝食支援をしているが、補助金が切れるので、今後どうしようか考えている。

委　員　補助金出すところまでは、探せるがその後継続していけるのかという問題がある。

委　員　本当に自立自走できる事業であれば、3 年で良いと思うが、補助金の制度設計についても一緒に考える必要がある。

委　員　普天間やま学校は、補助金の申請をやめた。書類作成に時間が取られて、本来の活動が出来なくなったので、補助金を取らずにボランティアで活動することに変えていった。補助金の申請をすることで、本来的な姿から外れていっているので、そこら辺も考えていかないといけない。

委　員　事務処理が得意な人も多くいると思うので、ボランティア人材をマッチングする機能も考えないといけない。

委　員　大学が中間支援機能を担う必要があるのではないか。

委員長　それでは、以上を持ちまして議事の審議をすべて終了いたしますが他になにかございますか。今日いただいた意見を踏まえ、事務局に資料の修正を行っていただいて、細かな文言調整等は会長預かりと言うことで、内容を確定したいと考えておりますが、皆様よろしいでしょうか。
それでは、これで、令和元年度　第一回　宜野湾市市民協働推進審議会を閉会したいと思います。皆さま、本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

以上

閉会